

尾登誠一教授（研究科長）

（ソーシャルデザイン）

～柔らかに越境し社会展開の可能性探検～

今回は、作品による自己紹介です。

創る姿勢－主張するデザイン

2001年に横浜磯子で計画した火力発電所の色彩デザインです。



日本ではデザインの対象になりにくくネガティブアセスメントに基づく発電所が一般的ですが、イギリスでは重要な社会資本として捉え、積極的にデザインされます。そうした中、国内で初めて発電所をポジティブにデザイン主張し、「公共の色彩賞」を受賞した事例です。

サッカー場を劇場に－感動共有空間

埼玉スタジアム 2002 は、FIFA から提示される収容人員やルーフ設置の条件等を踏まえて国際性とは何かにこだわったプロジェクトでした。

私は、全体の色彩計画とサイン計画を担当し、3年がかりの計画・デザインとなりました。コンセプトは「ドラマチックな感動共有空間の創出



サッカー場を劇場に」という設定です。グリーンのパッチを、映像を写す劇場の白いスクリーンに喩え、躍動する選手に 63,000 の観衆が視点集中できる色彩演出デザインにこだわりました。

海から 2 頭のゴジラ出現－物語性

実は 15 年前にデザインしたもので 4 年前にようやく完成した巨大橋梁です。海中からゴジラが出現対峙するイメージから黒を提案色としまし



た。途中、ライティングデザイナーが加わり、暗色はライティングしづらいということで最終的に

オフホワイトになり、橋梁愛称もゴジラから恐竜になってしまった。土木や景観デザインの領域において、「物語性」を提案することは未開拓な観点であり、挑戦することの意味を再認識しています。

赤紫(RP系)の下を車で走らせるなんて

皆さんも利用するETCゲートは、デザイン会社とコラボしたプロジェクトです。私の専門はプロダクトデザインですが、建築・土木・環境・景観に関わる色彩提案の依頼も受けます。



当初のデザイン会社案は赤紫(RP系)でしたが、赤紫はJIS安全色彩において放射能を示す色であり、現在の紫ETC色に変更決定した経緯があります。放射能の下を車を通過させる神経は、どう考えてもおかしいわけで、高速交通の安全性に配慮しつつ、景観デザインの視点を重層させながら検討しています。デザイン案は、実際に走行する速度でゲート300m前から視認できるかとい

った地味な検証作業を繰り返し行い運用可能となっています。

拘置所独房か宇宙茶室か

15年くらい前に国際高等研究所から東京芸大に「国際宇宙ステーションの人文社会的利用」に関わる研究依頼がありました。宇宙環境は地球環境と大きく異なり、微小重量・狭小閉鎖空間・混住などがテーマとしてあげられます。



私は人間・空間・時間を貫く日本の「間-MA」の概念に着目し、日本モジュール「きぼう」での長期滞在=居住環境の提案を「宇宙茶室」に見立て研究しました。科学が宇宙居住の可能性を確認し、芸術サイドでより人間的な宇宙での住まい方を提案しています。「宇宙茶室」は、2000年にアメリカNASAでのプレゼンテーションと宇宙居住に関する情報交換を行なっています。NASA案は、直径4m×長さ10mのシリンダーモジュールの筒芯をパイナップル状にくり抜

き、これを通路としつつ、果肉部分に当たる筒壁に個室を設けるといったものでした。それは1m×1m×2mのBOXタイプで、容積2㎡空間に半年～1年住むというものです。「宇宙茶室」のファウストインプレッションは、もって否なる「拘置所独房」です。ここでもまた不条理なデザインに対する汎人間的な視点介入の必要性を強烈に感じました。「宇宙茶室」は断面五角形で、NASA案の4倍の8㎡（2畳小間）をディメンションとする8名分の個室を実現することが可能です。デザインは幾何学、生物生態学等を複合するリゾウムの展開を試行し、夢を描かせます。

母体の中の子宮という宇宙

国際バードハウスプロジェクトは、世界から選抜される5人のアーティストの参加によるもので、第6回で私が選ばれ「μG - MOVABLE」という微小重力環境でのインナー家具を提案しています。



直径が1.3mのエアーストラクチュア球で、これも個室として睡眠・読書に利用可能です。母体の中の胎児の姿勢は宇宙での安息の姿勢に酷似しており、人間と宇宙、MICROとMACROが生命観で繋がるイメージでデザインしています。

人間の感性を大切にしたデザインを

これは、芸大助教時代のデザイン「鳥の声を聞くための道具」です。



ヘッドホンでは音を聴くのに耳を塞ぐ摩訶不思議なカタチであり、人間の聴覚を鈍化させる道具ではないかと考えています。



そして大学退任時の作品「君子さんのゆりかご」は、97歳の母親を此岸から彼岸へ渡す船で

あり、「デザインは愛である」という座右の銘を
カタチ化したものです。

以上が私の作品を通した自己紹介です。これか
らよろしく申し上げます。